

弦打山ト云フ、又海西ニ佐見島有テ弦打山ニ相對ス、略中此山大江ノ東ナレバ、江東ノハナト云ナリ、此山ト西濱ノ中間潮入ニテ、坂田室山ノ下マデ入海ナリ、東ハ野方口坂田中河原マデ潮ノサシ引アリ、中筋十八町白沙海中ニ入ル事、一筋ノ矢ノ筈ノ如シ、故ニ突原ト名付ル也、略中正規此所ヲ見立、地形ノ吉凶ヲ占ントテ相人ヲ召サル、ニ、略中相人トヲ布テ曰、此地富貴繁昌トモニ備ハリ、四神相應ノ地ト云ツベシ、略中土地ノ名ヲ目出度改メラルベキ歟、其謂レハ聖通寺ヨリ野原ヘ出シ給フ時ハ其詞凶シ、聖寺ヒジリヨリ通ジテ野原ヘ出ルト讀ケレバ、野之名ヲ改テ、目出度唱ヘノ名ニナサルベキカト申上シカバ、正規尤ト有テ、東ノ方高松ノ名ヲ改メ城ノ名トシ、古高松ハ波ノ寄來ル所ナレバ、寄來村ト名付給フ也、

〔南海通紀二十〕城山長者之事

丸在龜那西讚之國都也、初全讚時、慶長七年、生駒一正公城于丸龜山、爲藩屏、使入代之、略下

〔玉勝間十一〕讚岐國に古、矛竿を貢りしところの跡

讚岐國の事をしるせる物に、三野郡竹田村に當國忌部の庄として殊勝の地あり、釋迦堂屋敷と唱ふ、五社大明神といふ社有て、村の氏神と崇む、此村往古貢旗竿八百本上納せしに、今其竹枯失て、跡は田地となれり、この故に竹田村と號すといへり、かの國より矛竿八百竿を年毎に貢りし事、古語拾遺に見え、臨時祭式には梓木千二百四十四竿とあり、かの書に旗竿といへるは誤なるべし、

〔全讚史一〕郡多度郡七郷略中

仲村郷略中 伏見 在岡此二村今日善通寺村、略下

〔西行一生涯草紙〕同國讚岐善通寺と申て、弘法大師むまれさせ給たりける所に、心とまりていはりむすびて、二三年すみ侍りけり、